

ITU-T SG15 会合 (9/28-10/9) WP3 提出寄書

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q3-寄概-NTT (1)	OTNT 標準ワークプランのアップデート提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (1)	G.8021 のロス測定プロセスに関する修正提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (2)	G.8031 における同一優先度のリクエストに関するテキスト追加提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (3)	G.8032 における初期状態に関する考察
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (4)	G.8032 における強制切替状態時の回線障害のマスク処理
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (5)	G.8032 における相互接続リングの構成ルール
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (6)	G.8032 におけるガードタイマに関する考察
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (1)	R-APS チャネルの VID と Ring-ID の設定方法のガイドライン提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (2)	Interconnection Fuush logic の拡張提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (3)	リモート MS/FS ノードへのクリア実行時の状態遷移表の明確化
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (4)	マルチリング網における二重故障時のプロテクション動作のサポート
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (5)	MAC アドレス学習テーブル消去の単位
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (6)	自ノード ID よりも優先度の高いノード ID を持った NR メッセージを受信した場合の RPL Owner の動作に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-三菱電機 (1)	G.8031 の 11.2.1 章に対する文章提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (1)	G.ptneq におけるレイヤスタックモデル規定全般に関するコメント及び文面提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (2)	G.808.1 のスコープ明確化に関するコメントとテキスト提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (3)	G.808.2 の本文記載不足部分に対するテキスト提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (4)	G.808.2 のスコープ明確化に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (1)	G.806 再構築提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (2)	G.873.1 更新における検討
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (3)	改版ドラフト G.798 (TD98/Plen)へのコメント
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (4)	G.8121 修正提案と MPLS-TP クライアントとしての Ethernet に関する考察

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通(5)	ETH-LT 更新合意の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10&12-寄概-NTT(1)	MPLS-TP OAM メンテナンスポイント(MIP and MEP)の定義に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NEC(1)	Y.1731 の性能測定に関する考察
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NTT(1)	MPLS-TP OAM に関する追加の要求条件の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NTT(2)	MPLS-TP OAM 要求条件に関する修正提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-富士通(1)	Y.1731 Appendix I 削除提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-NTT(1)	OTUk のマルチチャネル伝送時におけるビットエラー耐性の改善
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-富士通(1)	改版ドラフト G.709 (TD95/Plen)へのコメント
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-富士通(2)	改版ドラフト G.709 (TD95/Plen) における明記提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q12-寄概-NTT(1)	WSON への多階層光クロスコネクティング機能追加の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q14-寄概-NTT(1)	G.7718 の要求条件の追加
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q15-寄概-CIAJ(1)	O.SyncEtjitter 勧告草案
資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q15-寄概-CIAJ(2)	STM-256 基準送信器評価法の追加

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q3-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要

(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：日本電信電話株式会社

(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposed update for "Optical Transport Networks & Technologies Standardization Work Plan"		
	和 訳	OTNT標準ワークプランのアップデート提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	Q3: 光伝達網の一般的特性		
Q3				
提出寄書の意図・目的： <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
・Q3ではOTN標準全般に関する標準プラン及びワークプランの作成を行っており、各種標準化検討の進捗を踏まえて修正提案を行う。				
寄書の内容： 本寄書では、OTN標準全般の中でワークプランから漏れている項目を指摘し、今後盛り込んでいくことを提案する。また、特に次期パケットトランスポート技術として各国から注目されているMPLS-TPに関してはIETFと協力して標準化を進めており進捗が見られたことから、具体的に内容を更新する提案を行う。				
勧告に対する外国の状況：				
他のSG、他の機関との関連： IETF MPLS WG, PWE3 WG, CCAMP WG				

(注) 寄書原文を提出すること

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NEC

寄書名	原題	Proposed modification for loss measurement process in G.8021		
	和訳	G.8021のロス測定プロセスに関する修正提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネット装置勧告(G.8021)の改正コンセントに関連し、フレームロス測定のプロセス定義についての問題提起とテキスト修正の提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>イーサネット装置勧告(G.8021)ではOAM・プロテクションに関する定義の追加を行い、Q.14/15との間で記述内容の明確化を重ねている。この結果、今会合での改正コンセントの必要性が2009年4月中間会合において合意された。</p> <p>本寄書ではOAMプロセスに関連し、片端から起動を行うSingle-endedフレームロス測定のロス数算出アルゴリズムにおいて、OAM勧告Y.1731と装置勧告G.8021との間に不整合があるという関連問題の提起を行い、後者の修正が必要であることの確認を行う。合わせて、フレームロス測定のプロセス定義全般における数件の誤記修正提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元： NEC

寄書名	原題	Proposed text for equal priority requests in G.8031		
	和訳	G.8031における同一優先度のリクエストに関するテキスト追加提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的：<input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネットプロテクション勧告(G.8031)の改訂コンセントに関連し、プロトコル規定の根拠を明確化するテキストの追加を提案する。</p>				
<p>寄書の内容：</p> <p>イーサネット線形プロテクション勧告(G.8031)では、改正1版(2007年10月)および訂正1版(2008年6月)の制定によって同一優先度のリクエスト競合時における状態遷移への考慮が追加された。今会合ではこれらの文書をマージする改訂作業が予定されている。</p> <p>本寄書では、プロトコル規定に対する理解を促すことを目的に、これらの状態遷移に関する根拠を明確化するテキストの追加を提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況：</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連：</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2 - 伝 - 2 - S G 1 5 - W P 3 - Q 9 - 寄 概 - N E C (3)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

I T U - T 会 合 へ の 提 出 寄 書 概 要
(会 合 名 : I T U - T S G 1 5 第 2 回 会 合)

提出元 : NEC

寄 書 名	原 題	Consideration of initial state in G.8032v2		
	和 訳	G.8032における初期状態に関する考察		
開 催 期 間		2009年9月28日～2009年10月9日	開 催 地	スイス、ジュネーブ
課 題 番 号	課 題 名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>今回の会合において改定コンセント予定のイーサネットリングプロテクション勧告(G.8032)の状態遷移表を詳細に確認を行ったところ、初期動作において他の状態と異なる動作となっており、本寄書にてその指摘を行うと共に修正案の提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容 :</p> <p>G.8032において初期状態の定義が以前の会合で決まったが、その後の会合のなかで状態遷移に新たな状態が定義された。しかし、その際、初期状態の見直しが行われなかったため、初期状態を定義した際に解決しようとしていた問題が再度発生し、また初期状態が他の状態と異なる動作をしていることがわかった。本寄書ではこの動作に関する問題提起と修正案の提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況 :</p> <p>Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。</p>				
<p>他の S G、他の機関との関連 :</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (4)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NEC

寄 書 名	原 題	Considerations of FS state in G.8032v2		
	和 訳	G.8032における強制切替状態時の回線障害のマスク処理		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>今回の会合においてコンセント予定のG.8032v2の状態遷移表を詳細に確認を行ったところ、強制切替状態においてプライオリティに起因する不備が発見され、本寄書にて問題点の指摘を行うと共に修正案の提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.8032において切替コマンドがこれまでの会議の中で追加された。切替コマンドの中で、強制切替コマンドは最も高いプライオリティであり、回線障害よりも高いプライオリティとなっている。G.8032では、コマンドを実施した装置以外はメッセージを元に状態遷移を行っている。強制切替状態を解除する際もメッセージによって行われるが、回線障害が発生していると、解除メッセージよりも回線障害のほうがプライオリティが高いため、回線障害が発生していると正しく切替状態を解除することが出来ないことがわかった。そのため、本寄書では、本問題の提起を行うと共に、修正案の提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NEC (5)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NEC

寄書名	原題	Configuration principle of interconnected rings in G.8032v2		
	和訳	G.8032における相互接続リングの構成ルール		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>今回の会合において改定コンセンサス予定のイーサネットリングプロテクション勧告(G.8032)では相互接続リングに対応する。本寄書ではこれらの相互接続リングをいくつかのモデルに分類し、その説明を加えることでユーザの理解を手助けすることを目的としている。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>改定予定のG.8032では相互接続リングの定義が追加され、いくつかのモデルが記載されている。本寄書では、それらのモデルをより分かりやすく変更し説明を加えることにより、ユーザの相互接続リングに対する理解を促進させることを目的としている。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極的に関与している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2 - 伝 - 2 - S G 1 5 - W P 3 - Q 9 - 寄 概 - N E C (6)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

I T U - T 会 合 へ の 提 出 寄 書 概 要
(会 合 名 : I T U - T S G 1 5 第 2 回 会 合)

提出元 : NEC

寄 書 名	原 題	Considerations of guard timer in G.8032v2		
	和 訳	G.8032におけるガードタイマに関する考察		
開 催 期 間		2009年9月28日～2009年10月9日	開 催 地	スイス、ジュネーブ
課 題 番 号	課 題 名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
イーサネットリングプロテクション勧告(G.8032)の改定コメントに関連し、ガードタイマの定義について再考し、現状の状態遷移における問題提起とテキスト修正の提案を行う。				
寄書の内容 :				
イーサネットリングプロテクション勧告(G.8032)において、ガードタイマは状態遷移した直後に古いメッセージを受信することにより再度状態が変化してしまい、リング内にループが発生するのを防ぐ目的で定義されていた。改定が予定されている本勧告では、強制切替/手動切替等の保守コマンドに関する機能追加が検討されており、ガードタイマに関してもこれらのコマンドに対応して状態遷移表にガードタイマが動作するケースが追記された。 本寄書では、ガードタイマが動作するケースを分類し、それらに対してガードタイマが動作する意義を再考すると共に、この分類から状態遷移表内に不整合があるという問題の提起を行い、修正が必要であることの確認を行う。				
勧告に対する外国の状況 :				
Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。				
他の S G、他の機関との関連 :				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社

寄 書 名	原 題	Guideline for configuration of VIDs and Ring-IDs of R-APS channels.		
	和 訳	R-APSチャネルのVIDとRing-IDの設定方法のガイドライン提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G.8032のリング規定は、制御用チャネル (R-APSチャネル) の管理のためVID及びRing-IDを用いる。実装及び運用の指標とするため、VID及びRing-IDの設定方法のガイドラインをAppendixに記載することを目標とする。これにより、ベンダ毎に仕様差分が生じることを防ぎ、またNTTが想定するリングの運用方法を可能とする実装を明確にすることを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容: R-APSチャネルの管理のためのVID及びRing-IDの設定方法のガイドラインを提案する。また、その設定を可能とするための文書の明確化提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems)、U.S. (Extreme Networks)も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連: 特になし</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社, 日本電気株式会社

寄 書 名	原 題	Proposal for enhancements of Interconnection Flush logic.		
	和 訳	Interconnection Flush Logicの拡張提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>マルチリングを構成するリング装置において、FDBの初期化 (Flush) 仕様を修正し、G.8032の適用範囲の拡張を行うことを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>マルチリングを構成するリング装置が保持するInterconnection Flush Logicにおいて、リング間Flush連携機能をOFFにした場合に、単一の故障切替時において通信断になってしまう仕様の修正を行う。また、該機能をONにした場合に、対応できるマルチリングのトポロジを拡張するための仕様修正を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems)、U.S. (Extreme Networks)も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>特になし</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (3)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社

寄 書 名	原 題	Clarification of state machine in case of Clear to remote MS/FS node		
	和 訳	リモートMS/FSノードへのクリア実行時の状態遷移表の明確化		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネットリングプロテクション勧告において、勧告文書内で不明瞭な記述が行われている部分の改訂を提案し、リングの状態遷移を明確化することを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>本寄書では、勧告文書で規定される状態遷移のうち、FS/MS状態のノードにおいて、他のノードからの制御信号によりFS/MS状態となったものについて、Clearコマンドを実施した場合に状態がふらつく事象が発生するため、ノードの状態により状態遷移先を変更する記述とすることを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems)、U.S. (Extreme Networks)も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>なし</p>				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (4)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名 : ITU-T SG15 第2回会合)

提出元 : 日本電信電話株式会社

寄 書 名	原 題	Support of protection mechanism in case of multi-ring network with double failures		
	和 訳	マルチリング網における二重故障時のプロテクション動作のサポート		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネットリングプロテクション勧告において、リングにより構成されたネットワーク上で二重故障が発生した際の対応方法を本文内もしくは付録として追記することを提案し、リングの機能と運用性の向上を行うことを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容 :</p> <p>本寄書では、二重故障を、一般的に発生しやすい単一ノード上での複数リンクにおいて故障が発生した際に限定し、このケースにおける通信路の確保を、現在のドラフトの規定を大きく変更することなく行うことを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況 : Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems) 、U.S. (Extreme Networks) も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連 :</p> <p>なし</p>				

資料 2 - 伝 - 2 - SG 15 - WP 3 - Q 9 - 寄概 - NTT (5)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名 : ITU-T SG 15 第 2 回会合)

提出元 : 日本電信電話株式会社

寄 書 名	原 題	A set of flushing FDB		
	和 訳	MACアドレス学習テーブル消去の単位		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネットリングプロテクション勧告において、プロテクション動作時に実行されるMACアドレス学習テーブルの消去を実行する単位について、勧告文書内に明確に記述し、用途により使い分けられるようにすることを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容 :</p> <p>本寄書では、リングのプロテクション動作におけるMACアドレス学習テーブルの消去を、ノード全体、故障したリングの設定されたポート、故障したリングインスタンスの設定されたVLANの3つの単位で実行できることを明確にし、それぞれの長所・短所を明らかにすることで、ネットワークの規模により使い分けることが運用者にとって有用であることを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況 : Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems) 、U.S. (Extreme Networks) も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連 :</p> <p>なし</p>				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-NTT (6)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社

寄 書 名	原 題	Proposal for behaviour of RPL owner receiving an NR message with higher NODE_ID.		
	和 訳	自ノードIDよりも優先度の高いノードIDを持ったNRメッセージを受信した場合のRPL Ownerの動作に関する提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置およびネットワークプロテクション/レストレーション		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G.8032勧告草案には、過去の中間会合で要検討である旨記載されたEditor's noteが残っており、未だ対処が未完了である。本寄書にて、このnoteに関して現状仕様のままで問題ないことを提案し、対処完了とすることを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>故障からの復旧動作において、RPL ownerが、自ノードIDよりも優先度の高いノードIDを持ったNRメッセージを受信した場合にRPLポートを開放する現在の仕様が、運用上問題ないことを説明し、現状の仕様のままとすることを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: Canada (Nortel Networks), Germany (Nokia Siemens Networks), U.S. (Alcatel-Lucent), India (Tejas Networks), Republic of Korea (ETRI), China (Huawei, ZTE)が積極的に関与している。また、独自のリング技術を持つU.S. (Cisco Systems)、U.S. (Extreme Networks)も動向把握のため参加している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>特になし</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-三菱電機 (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 三菱電機株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	G.8031の11.2.1章に対する文章提案		
	和訳	Proposed texts for clause 11.2.1 of G.8031		
開催期間		2009年 9月28日～2009年10月 9日	開催地	スイス/ジュネーブ
課題番号	課題名	伝達装置及びネットワークの切替・復旧		
9/15				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>今会合でコンセンタが予定されているEthernetリアプロテクション切替勧告(G.8031/Y.1342)の改版に対し、完成度向上のため、追加文章を提案する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.8031は2006年6月に初版をコンセンタした後、2007年10月に改定1、2008年6月に訂正1がコンセンタされている。その後、切替操作の追加や、状態遷移の明確化・修正も行われ、SDL記法による状態遷移の記述も合意されている。今会合では、これらをまとめたG.8031v2をコンセンタ予定であるが、一部、文章の追加が必要な箇所が残っている。</p> <p>本寄書は、11.2.1章に対する提案文章であり、切替プロセス中に定義されているhold-offタイマーロジックの動作と、切替の状態遷移がどこで計算・評価されるのかを明確に記述することを目的としている。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>文章追記の必要性についてはすでに合意されており、反対は予想されない。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

特になし。

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: (株)日立製作所
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Comments on the layer stack description in G.ptneq		
	和訳	G.ptneqのレイヤスタック図に関するコメント		
開催期間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開催地	スイス/ジュネーブ
課題番号	課題名	Transport equipment and network protection/restoration		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>Q9/15の中間会合(6月、ジュネーブ)で提案された新勧告G.ptneqについて、勧告文面の提案を行う。本勧告はEthernet networksとMPLS-TP networksとを相互接続又はトンネル接続する場合の装置内処理方法を規定するものである。特に新しい技術を取り入れることが目的ではなく、ITU-TとIETFで進められている議論を整理し、プロトコル間の相互関係(の一例)を規格化することで、ユーザに対して一つの方向性を示そうとするものである。</p> <p>本既書ではG.ptneqの勧告草案を作成するため、まずトランスポートシステム概念図の読み取り方及びその規格化の意義を明確化することを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容: 新規勧告G.ptneqへのテキスト提案であり、唯一記載されているレイヤスタック図の解釈に関する。 勧告に対する外国の状況: Huaweiの標準化担当が主体で活動中。本書類提出時点でエディタからのドラフト提示未完。このような状況から、本寄書への大きな障壁は無いと考える。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

特になし

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: (株)日立製作所
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Comments and proposals on the Summary and Scope of G 808.1		
	和訳	G 808.1の範囲明確化に関するコメントとテキスト提案		
開催期間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開催地	スイス/ジュネーブ
課題番号	課題名	Transport equipment and network protection/restoration		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>一般的なりニアプロテクション切替勧告G.808.1において、パケット通信網をターゲットに含むようスコープを変更する提案を行う。</p> <p>前回会合において提出した寄書により、G.808.1の一部にはEthernetとMPLS-TPを代表とするパケット通信プロトコルを、既存のSDH, OTN, ATMと共にターゲットに含むという記述が追記された。しかしながら勧告の一部には未だ修正未完の箇所が残っており、本寄書により修正要求を再度提出すると共に、G.808.1勧告の位置づけを再確認する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>既存勧告G.808.1の範囲の一部を改訂する提案。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>本寄書では勧告の位置づけを記載する範囲文の一部を変更する提案であり、勧告本文の内容には影響しない。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

特になし

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (3)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: (株)日立製作所
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Comments and proposals on the text of group protection in G.808.2		
	和訳	G.808.2におけるグループプロテクション記述に関するコメントと提案		
開催期間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開催地	スイス/ジュネーブ
課題番号	課題名	Transport equipment and network protection/restoration		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G.808.2でのグループプロテクション採否に関して、現ドラフトではサポートしないとの文面が見られる。実際にはイーサリング等では論理的に設定されるリングインスタンスの一部(RPLを共有するインスタンス)を選択的に切替えることが可能である。そこで本寄書では、該機能をサポートするため、G.808.2の記載修正を提案する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>既存勧告G.808.2のドラフト(本文)の一部を改訂する提案。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>本勧告は一般的なリングプロテクション切替を規定するが、完成度が低いため今後も多くのインプットが必要である。現時点ではアジア勢がG.8032規定に注力し、欧米は静観している状況。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

特になし

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-日立 (4)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: (株)日立製作所
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Comments and proposals on the Summary text of G.808.2		
	和訳	G.808.2の冒頭(サマリー)テキストの変更提案		
開催期間		2009年 9月28日～ 2009年 10月 9日	開催地	スイス/ジュネーブ
課題番号	課題名	Transport equipment and network protection/restoration		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G.808.1と同じく、パケットトランスポートを対象に含むことがスコープ・サマリーテキストに明示されていないため文面を一部変更することを提案する。</p> <p>一般的なリングプロテクション切替勧告G.808.2において、G.808.1と同様にパケット通信網をターゲットに含むように修正することを前回会合において提案した。その結果G.808.1の一部にはEthernetとMPLS-TPを代表とするパケット通信プロトコルを、既存のSDH, OTN, ATMと共にターゲットに含むという記述が追記された。しかしながらG.808.2には未だ修正未完の箇所が残っている。本寄書により修正要求を再度提出すると共に、G.808.2勧告の位置づけを再確認する。</p>				
<p>寄書の内容: 既存勧告G.808.2のサマリーテキストの一部を改訂する提案。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況: 本寄書では勧告の位置づけを記載するスコープ文の一部を変更する提案であり、勧告本文の内容には影響しない。</p>				

他のSG、他の機関との関連：

特になし

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Proposed restructuring G.806		
	和 訳	G.806再構築提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>Generic を謳いながらSDHに偏ったG.806の内容を見直し、伝送網全般に適用できるよう提案する</p> <p>寄書の内容: G.806 は一般的装置特性として、警報定義などを示した勧告である。特に、第6章(Supervision: 管理機能)については、警報機能を始めトランスポートの特性をまとめたもので重要な項目である。同章は、一部共通的なものはG.783やG.798から移植されたものがあるが、そもそもSDHをベースに構成された傾向が根強く残っている。 そのためOTN, Packet 系も鑑み、より一般的に Supervisionを扱え、トランスポート全般に適用されやすいよう改版を提案する。 例として、Packet (現在は、G.8021 (, G.8121)) 定義のContinuous check/connectivity verificationの反映や AIS, CSF の一般化 (脱GFP)を取り上げる。</p>				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連:				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通(2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Consideration on progressing G.873.1		
	和 訳	G.873.1更新に関する検討		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧 (参考: Q3 光伝送網の一般的特性)		
9 (,3)				
提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
近年のOTN更新に伴い、更新予定の本勧告への提案。提案の一部はG.808.1, G.780も含まれる				
寄書の内容: G.873.1 は、6月の中間会合で最近のOTN・Protection関連の進展に応じて内容が見直されることが合意され、本会合で議論が再開される。本寄書は、現在の課題と列記するものであり以下の項目が含まれる。 (1) ODUk-AIS におけるトリガー(Signal Fail)条件の明確化 (2) HO/LO の導入による影響。またはInherent の Non-intrusive明確化 (3) ODUkP における 1:1 SNC/Nおよび CL-SNCG/I についての検討(導入の可能性と明確化要求) (4) TCM プロテクション Nest 時における動作。G.709の記述を当勧告反映べき (5) APS Phase (推奨数)に関して。1:1Bidirectional が課題となるが、G.808.1で本件で未解決なので合わせて再考を要求 (6) Terminology (G.870, G.808.1 にも関連)				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連:				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (3)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Comments on draft revised G.798 (TD98/Plen)		
	和 訳	改版ドラフトG.798 (TD98/Plen)へのコメント		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
9				
提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
改版ドラフトG.798へのエディトリアル中心のコメント行い、コンセントに貢献				
寄書の内容: 既に、TD98/plenでアップロードされている改版ドラフトへのエディトリアル中心のコメントであり、スペルなどのタイポなど(今回改版以外も含む)を指摘し、本会合でのコンセントに貢献する。 主な指摘内容は以下の通り。(Editorial な内容については締め切りまで増える可能性あり)				
Clause 6.2.4.1.1における、表記(編集)のずれタイポ、 Clause 11.2 OPSMnk_TT trailにおける図などの k=3, 4 の分離要求 (まとめて書くとかえってわかりづらい)、 Clause 14.1 SNC protection における脱字指摘 など				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連:				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (4)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Proposed modification for G.8121 and consideration of Ethernet as MPLS-TP client		
	和 訳	G.8121修正提案とMPLS-TPクライアントとしてのEthernetに関する考察		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧 (Q14: 伝送システム及び装置の管理と制御, Q10: 伝送網向けOAM, Q12: 伝送網アーキテクチャ)		
9 (,14, 10, 12)				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>現在、ドラフティングを進めているG.8121を可能な限り進めるため、既に指摘された事項への対案、および、各勧告間であいまいなEthernet クライアントの考察と修正提案を行う</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.8121 は、現在MPLS-TPに内容を修正すべく、中間会合を経て改版作業を進めている。その中間会合で指摘のあった内容について、IETF側の意向に影響のない箇所(参考: ある例はOAM機能定義)について修正提案を行う。具体的には</p> <p>(1) 中間会合で合意されたClient = Ethernet の明確化。G.8121 は、参照にふさわしくないY.1415 をベースにした記載にしているが、G.8110.1がRFC4448に移行していることからY.1415は削除することを要求する。同時に、他勧告も同調することを提案する</p> <p>(2) 中間会合で指摘のあった、Ethernet 収容に関する QoS プロセスの明確化。厳密には、根拠のない定義をいったん白紙化する。またG.8021の流用で定義されたETH-AIS機能も、MPLS(-TP) との相互作用が不明ためいったん削除する</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>IETF (MPLS-TP関連WG)</p>				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q9-寄概-富士通 (5)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Proposed agreement on ETH-LT progress		
	和 訳	ETH-LT更新合意に関する提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝達装置及びネットワークの切替・復旧 (Q10: 伝送網向けOAM)		
9, (10)				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>Ethernet OAM勧告 Y.1731定義のETH-LT互換性維持に関して、Q9の合意を取り付ける</p> <p>寄書の内容: 前回会合にて、Ethernet OAM勧告 Y.1731 にて2008承認版と、その前の版(2006版)との間で、LT (Link Trace)のフォーマット規定が2006版と2008版の間で互換性が取れない状況にあるため、互換性維持を保証する記述追加提案を行った。(C.126) Y.1731を扱うQ.10では合意され現在 Living List で管理中である。 本件はQ.9の意向を確認するという条件がついたため、本寄書にてQ.9に最終確認を促し、C.126 に基づきY.1731の更新を行うことを提案するとともに、関連するG.8021にもこの考慮を伴う記述を追加することを提案する</p>				
勧告に対する外国の状況:				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>IEEE802.1 と関連があり</p>				

資料2-伝-2-SG15-WP3-Q10&12-寄概-NTT(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposal of definition of MPLS-TP OAM maintenance points(MIP and MEP)		
	和訳	MPLS-TP OAMメンテナンスポイント(MIP and MEP)の定義に関する提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	Q10: 伝達網のOAM		
Q12		Q12:伝達網アーキテクチャ		
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input checked="" type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>・MPLS-TPについては、IETFのMPLSとPWE3のアーキテクチャに伝達網の技術を拡張して実装する方向で協力して標準化の検討が進められているが、最も重要なOAMのメンテナンスポイント(MIPとMEP)に関して議論されたものの最終的な結論が明確にされていない。運用の観点からアーキテクチャとして必要な定義を提案し、要求条件を明確にすることを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>MPLS-TPにおけるメンテナンスポイント(MIP及びMEP)は、トランスポートプロファイルの特徴である故障点検出や各種メンテナンスを行う上で最も重要な定義の1つである。本寄書ではキャリアがパケットトランスポート網でサービスを提供する上で、障害検出/対応に必要な特徴について説明する。その特徴を満足するために必要なメンテナンスポイント(MIP及びMEP)設定のガイドラインを示し、1つのノード内に2つのMIP、または、MIPとMEPを設定できることを要求条件に明記することを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>IETFのMPLSなどではメンテナンスポイントが1点であり、サービスレイヤの観点から2点の必要性について</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NEC (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NEC

寄 書 名	原 題	Considerations of Y.1731 Performance Monitoring		
	和 訳	Y.1731の性能測定に関する考察		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送網向けOAM		
10				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>イーサネットOAM勧告(Y.1731)のテキスト修正・機能追加検討を促す2件のリエゾンに対応し、対処方針の考察とテキスト修正内容の提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>2006年に初版制定されたイーサネットOAM勧告(Y.1731)では、パケットロス・遅延・遅延揺らぎに関する性能測定方法を規定している。他団体(SG12, Metro Ethernet Forum)ではY.1731を参照して他標準の制定を進めているが、この作業にて上がったテキスト修正・機能追加検討を促す2件のリエゾンがSG12より提出された。</p> <p>本寄書ではこれらのリエゾンに対応し、各指摘事項に対する考察を示すとともに、必要なテキスト修正についての提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>SG12 Metro Ethernet Forum (MEF)</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposal of additional MPLS-TP OAM requirements		
	和 訳	MPLS-TP OAMに関する追加の要求条件の提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	Q10: 伝達網のOAM		
Q10				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input checked="" type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>・MPLS-TPのOAMの要求条件やフレームワークのIETFドラフトの議論が進められているが、IETFのMPLSやPWE3の既存のアーキテクチャや実装を理由に一部の必要なOAM機能が盛り込まれない可能性がある。本寄書では現在あいまいな状態になっている要求条件を明確にするとともに、運用上有益と考える新たなOAMの要件を提案する。</p>				
<p>寄書の内容: 本寄書ではMPLS-TPのOAM機能に関して、MIP点からの試験機能、テスト機能におけるパケットサイズの柔軟な設定、スループット確認、プロテクションパスの予備系パス状態確認について追加の要求条件を提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連: IETF MPLS WG, PWE3 WG, CCAMP WG</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposal of modification of MPLS-TP OAM requirements		
	和 訳	MPLS-TP OAM要求条件に関する修正提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	Q10: 伝達網のOAM		
Q10				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>・現在、MPLS-TP OAMについては、IETFのOAM要求条件ドラフト、及び、フレームワークドラフトで議論が行われている。その中で、内容について不明確な点を指摘し、関連文書の完成度向上を目的として改善案を提示する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>本寄書では、OAM機能の特性表の追加、インサービス/アウトオブサービスの情報追加、各機能の分類(障害管理、パフォーマンス、テスト)、ループバック機能の役割、コネクション確認機能の内容の明確化について提案を行いMPLS-TP関連ドラフト及び勧告への修正提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>IETF MPLS WG, PWE3 WG, CCAMP WG</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q10-寄概-富士通(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Proposed removal of Appendix I from Y.1731		
	和 訳	Y.1731 Appendix 1削除提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送網向けOAM		
10				
提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
G.8021に内容を移管され、旧コンテンツになったY.1731 Appendix 1削除提案				
寄書の内容: Ethernet OAM 勧告Y.1731 中のAppendix I は、Defect 条件などを規定したものであるが、本Appendixは、そもそもG.8021(Ethernet 装置プロセス)に移管するために先(SG13 2005-2008)に作成したものである。 現在、内容はG.8021(Q9)に移管され、一部条件はG.8021にて修正ため双方間で内容も不一致も存在する状況を鑑み、目的を果たしたAppendix Iの削除を提案する				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連: IEEE				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Improvement of bit-error tolerance for OTUk multi-channel parallel transport		
	和 訳	OTUkのマルチチャネル伝送時におけるビットエラー耐性の改善		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Signal structure & Interfaces		
11				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>勧告G.709 Amendment 3のAnnex Cにて規定されているOTU3/OTU4のマルチチャネル伝送においてビットエラー耐性を高める必要があることを指摘し、より完成度の高い規定とすることを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>昨年12月のSG15会合にてコンセントされたG.709 Amendemnt 3, Annex Cに規定のOTU3/OTU4マルチチャネル伝送は、40G/100Gイーサネットモジュールを流用することで経済的にOTU3/OTU4の短距離伝送を可能とする技術である。しかし、G.709にて規定されている誤り訂正符号を最大限に利用して距離を延伸したときには、現行規定ではビットエラー耐性が十分ではないことを見出した。そこで、ビットエラー耐性を高めるための検討を進めることを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>当該規定に関しては Alacatel-Lucent (米国), Nortel (英国) が積極的に関与している。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>40G/100Gイーサネットを規定しているIEEE 802.3baと関連する。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-富士通(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Comments on draft revised G.798 (TD95/plen)		
	和 訳	改版ドラフトG.709 (TD95/Plen)へのコメント		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送装置及びネットワークの切替・復旧		
11				
提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/> A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/> B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/> C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書				
改版ドラフトG.709へのコメントを行いコンセントに貢献する				
寄書の内容: 既に、TD95/plenでアップロードされている改版ドラフトへのエディトリアル中心のコメント 数値・スペルなどのタイポなどを指摘し、本会合でのコンセントに貢献する。				
注: G.709改版コンセントに向けては、既に中間会合・コレスポンディンス活動を通して技術的方式の議論を進め弊社もExploder(e-mail)を通してコメント(提案)を出してきた。				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連:				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q11-寄概-富士通 (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 富士通株式会社

寄 書 名	原 題	Proposed further clarification on draft revised G.709 (TD95/Plen)		
	和 訳	改版ドラフトG.709(TD95/Plen) における明記提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	伝送網の信号構造、インタフェースおよびインタワーキング		
11				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>改版ドラフトG.709へのコメントであるが、明記が必要な提案を伴うため別寄書として提案</p> <p>寄書の内容: 既に、TD95/plenでアップロードされている改版ドラフトにおいて、細部であるが以下の点について明確化を要求する。背景の明記が必要であること、および解決案に複数の案が存在する別寄書(Editorial comments)とは別に提出する</p> <p>(1) 表7-8 中の ODUflex(GFP), $n = 9..32$をにおける factor C_m/P_{server} (ODUkレートをもとに真の収容レートを算出するための係数)の算出根拠が不明であり、ややもするとG.709 でなくG.sup43定義のODU3e2を前提にしている可能性がある。前提にしようとしまいと現在の値は修正が必要であるが、前提(ODU3e2を考慮するかしないか)を不明確にしたままでは今後に影響ある可能性があり、二案の修正案を出しどちらかにすることを要求する。(弊社は、option 2 を推奨)</p> <p>(2) OPUk (k=2, 3, 4)ビットレート付近のクライアント付近におけるOPUマッピング手法に関する、対象クライアントの周波数条件に関する明記</p>				
勧告に対する外国の状況:				
他のSG、他の機関との関連:				

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q12-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG 第 7 回会合)

提出元: NTT
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposal of introducing multi-granularity in photonic cross-connect switching in WSON transmission		
	和 訳	WSONへの多階層光クロスコネクトスイッチング機能追加の提案		
開催期間		2009 年 9 月 28日~2009 年 10 月 9日	開催地	Geneva
課題番号	課題名	伝達網アーキテクチャ		
Q12				
<p>提出寄書の意図・目的: <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>近年の大容量化に対応するために、波長単位での大容量切替を可能とする光ネットワークの実現が期待されており、WSON(Wavelength Switching Optical Netwrok)はその一つとしてITU-TおよびIETFで検討されている。本寄書提案はQ12/WP3での光ネットワークモデル化において多階層型切替の概念を導入し、その議論を先導することを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>波長単位での大容量切替型光ネットワークにおいて、従来の波長単位での切り替えに加えて、より多様な粒度での切り替えを可能とすることをアーキテクチャに含めることを提案し、その構成法、利用法とともに信号劣化特性について詳述する。</p>				
勧告に対する外国の状況: なし				

他のSG、他の機関との関連： IETF等

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q14-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Additional requirements for G.7718		
	和 訳	G.7718の要求条件の追加		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	Q14: 伝送システム及び装置の管理と制御		
Q14				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>・今会合において、G.7713(ASONシグナリング)において、レイヤ間シグナリングや帯域変更などに伴う Call/Connection modification が追加されて改訂が行われる予定だが、それに伴って関連する G.7718(ASON管理フレームワーク)の要求条件にも追加が必要であり提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>本寄書では、ヒットレスの帯域変更に伴う Call や Connection の修正を行う際、例えば SDH では実際の Transport plane の帯域は LCAS プロトコルが動作し、シグナリングは補助的なツールとなる。従って通常のパスの生成削除とは異なるプロセスで C-plane と M-plane の情報の整合をとる必要があることから、LCAS プロトコル動作後の整合に関する要求条件を追加する提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p>				
<p>他の SG、他の機関との関連:</p> <p>IETF CCAMP WG、OIF</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料2-伝-2-SG15-WP3-Q15-寄概-CIAJ(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名:ITU-T SG15 第2回会合)

提出元:情報通信ネットワーク産業協会
ITU-T 共同加盟小委員会
(アンリツ株式会社)

寄書名	原題	Proposal for new draft of O.SyncEjitter (ex. O.packetjitter)		
	和訳	O.SyncEjitter 勧告草案		
開催期間		2009年9月28日～10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Test and measurement techniques and instrumentation		
15				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>Synchronous Ethernet 網のジッタ・ワンダ測定方式を規定する新勧告(仮勧告名:O.SyncEjitter)の草案の未確定部分の議論を進める提案を行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>前会合において、Q13との合同会合等でO.SyncEjitterの適応範囲が明確になり、初期草案が作成された。本寄書は、適応インタフェースや測定誤差等の未確定部分を提案し、議論を進める。</p>				
勧告に対する外国の状況:なし				
他のSG、他の機関との関連:なし				

(注)寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q15-寄概-CIAJ (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名:ITU-T SG15 第2回会合)

提出元:情報通信ネットワーク産業協会
ITU-T 共同加盟小委員会
(アンリツ株式会社)

寄 書 名	原 題	Addition of new Appendix IX/O.172 evaluating STM-256 reference transmitter		
	和 訳	STM-256基準送信器評価法の追加		
開催期間		2009年9月28日～10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Test and measurement techniques and instrumentation		
15				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>STM-256 40Gジッタ測定器検証方法をどのように定義するか議論を進めているが、本寄書は、O.172 Appendix IXとして40G基準送信器の検証方法を追加する提案を行い、O.172の改定作業を進める。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>前会合でJDSUより提案されたスペアナを使用した検証方法に、RJの制限の定義等を追加し、高精度基準信号発生器の検証方法をO.172 Appendix IXとして追加する提案を行う。これにより40Gジッタ測定器の検証方法の議論を積極的に進める。</p>				
勧告に対する外国の状況:なし				

他のSG、他の機関との関連:なし

(注)寄書原文を提出すること。